

## 平成27年度博物館実習生製作企画展示

27年度の実習生は9名で、3名を1グループとし3班で企画展示を行った。作製スペースとして背面パネル2枚分（H2,400mm×W1,800mm）と館保管の展示ケースや展示台、机等を使用した。タイトルや解説をパネルに掲示し、標本等をケースや台に展示した。

### ○各班の企画展示について

#### 【1班】

① タイトル：「蚕と田島弥平」

② 展示概要・趣旨

2014年、「富岡製糸場と絹産業遺産群」がユネスコの世界遺産に登録された。群馬は古くから養蚕・製糸の盛業地であり、現在も繭と生糸の生産量は全国一を誇る。本展では蚕の生態と田島弥平が考案した蚕の飼育法に着目し、自然科学と人文学双方の観点から群馬の蚕糸業を分析、展示する。現在でも全国一を誇る群馬の蚕糸業が、蚕の生態と田島弥平の業績、両者の存在が結びついて成り立っていることを理解してもらう。



#### 【2班】

① タイトル：「森にも都市にもタヌキ」

② 展示概要・趣旨

タヌキは本来里山などの人里に近い森林域に生息する動物である。しかし、人による環境の開発や開発地の放置は、タヌキの生息環境を劣化させ、その結果としてタヌキの生息環境が変化している。側溝や民家の軒下などの人工物を上手に利用することができたり、雑食性でどこでも食べ物を見つけることができるなど、タヌキは環境の変化に柔軟に適応している。本展では、生活環境の変化に適応する都市動物の代表例としてタヌキに関する展示を行う。タヌキの習性は、人間と生活領域を重ねることに向いているものばかりではなく、常にと隣り合わせである一方、人間の生活領域にも暮らしていることが、タヌキの生き残るために必要な行動の1つであることを述べ、そこから野生動物の一つの種であるタヌキが生き残るための行動戦略を伝える。この展示を通して、タヌキが身近な野生動物の一種として理解してもらう。



### 【3班】

#### ① タイトル：「大絶滅とサバイバー」

#### ② 展示概要・趣旨

私たちが生きているこの地球は5回に渡る大量絶滅を繰り返してきた。この5回の大量絶滅の時代に生きていた生物の中から群馬県で発見された生物を紹介し、また現代まで生き延びた生物を取り上げ、太古の生命を身近に感じてもらおう。そして現在始まっていると言われている6回目の大量絶滅について、紹介した生き延びた生物をからめ「6回目の絶滅を生き残る者は誰か？」という投票式のワークショップを行う。その上で次に起こり得る絶滅について来館者の方々が考える糸口となるような展示にする。



### ○企画展示発表会と解説の様子

